

平成21年度 病害虫発生予察情報

発生予報第8号（9月前半）

平成21年 8月28日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	平年並
		紋枯病	やや多い
		白葉枯病	平年並
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	平年並
		トビイロウンカ	平年並
		コブノメイガ	平年並
		斑点米カメムシ類	やや少ない
		ハスモンヨトウ	平年並
		黒斑病	平年並
果樹	ダイズ	シンクイムシ類	やや多い
		ハダニ類	平年並～やや多い
		カメムシ類	平年並
	ナシ	うどんこ病	多い
		カキミガ	平年並
		カメムシ類	平年並～やや多い
		カキ	平年並

中国地方1か月予報（8月29日～9月28日・広島地方气象台8月15日発表）

<予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の気温は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

気温

20%	40%	40%
-----	-----	-----

降水量

40%	30%	30%
-----	-----	-----

日照時間

30%	30%	40%
-----	-----	-----

--	--	--

 低い（少ない）

--	--	--

 平年並

--	--	--

 高い（多い）

A. 普通作物果樹

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

全域

発生量

平年並

予報の根拠

①初発時期は8月3日で平年並みである。また、8月26日現在、巡回調査地点における穂いもちの発生量は発生圃場率が10.0%、発病穂率は0.2%と平年に比べてやや少ない。

②伝染源となる葉いもちの全般の発生量はほぼ平年並みである。

③向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

全域

発生量

やや多い

予報の根拠

①8月26日現在、巡回調査地点における発生量は発生圃場率が46.2%、発病株率は12.0%と平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 平年並

予報の根拠

①全般の発生量は平年並みである。

②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①8月下旬の巡回調査では、寄生虫数35.6頭/50株(平年57.6頭)、発生圃場率85.7%(平年74.1%)で発生量は平年並みである。

②予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。

③向こう1ヶ月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①8月下旬の巡回調査では、寄生虫数8.2頭/50株(平年7.1頭)、発生圃場率71.4%(平年51.4%)で発生量は平年並みである。

②予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。

③向こう1ヶ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①8月下旬の巡回調査では、寄生虫数0.6頭/50株(平年2.7頭)、発生圃場率19.0%(平年20.7%)で発生量は平年並みである。

②予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。

③向こう1ヶ月の気象は本種の発生に助長的である。

(7) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①8月下旬の巡回調査では、寄生虫数0.1頭/50株(平年0.2頭)、被害株率2.3%(平年2.8%)で発生量は平年並みである。

②予察灯への飛来量は平年に比べて少ない。

③向こう1ヶ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①圃場ですくい取り調査では発生圃場率、捕獲頭数ともに少ない。

②予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数は少ない。

③向こう1ヶ月の気象は本種の発生に助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 全域

発生量 平年並

予報の根拠

①フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は出雲市で平年比90.9%、益田市で85.6%とほぼ平年並みである。

②8月末現在の巡回調査での本種幼虫による1a当たりの白変カ所数は0.23カ所(平年0.90カ所)で少ない。

③向こう1ヶ月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

① 8月24日の巡回調査では、発病葉率は18.8%（平年21.1%）であり、平年並である。

② 向こう1ヶ月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生時期 やや遅い
発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雌成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数はやや多い。

② 向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ハダニ類

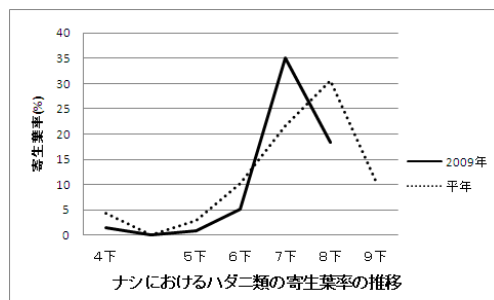
予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 巡回調査では、寄生葉率、寄生虫数とも平年並みである。

② 向こう1ヶ月の気象は発生をやや助長的である。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

① 予察圃場（出雲市）予察灯でのカメムシ類の誘殺数はやや少ない。

② 向こう1ヶ月の気象はカメムシ類の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 多い

予報の根拠

① 8月25日の巡回調査では、発病葉率は26.3%（平年11.6%）であり、平年と比べて多い。

② 向こう1ヶ月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。

② 向こう1ヶ月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

① 予察圃場（出雲市）予察灯でのカメムシ類の誘殺数はやや少ない。

② 向こう1ヶ月の気象はカメムシ類の発生にやや助長的である。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/shimane/>